

87 甲状腺腫瘍の RI 診断： とくに¹⁹⁷Hg, ²⁰¹Tl, ⁶⁷Ga の甲状腺 Scintigraphy の検討。

宮川 信, 小林 克, 代田廣志, 千賀 脩,
菅谷 昭, 牧内正夫 (信大, 二外)

われわれは甲状腺腫瘍の補助的診断法として、腫瘍親和性 Isotopes を用い、その診断率の向上につとめている。今回は、¹⁹⁷Hg, ²⁰¹Tl, ⁶⁷Ga の甲状腺 Scintigraphy を行って検討したところ、組織型により RI の集積の異なることを見出し、鑑別に有力な補助診断であることを認めたので、その集積像の相違点とその集積機序について検討する。

¹⁹⁷Hg では乳頭癌 81.3%, 濾胞癌 60%, 未分化癌 100%, 悪性リンパ腫 100% の集積陽性像が認められる。²⁰¹Tl では乳頭癌 86.7%, 濾胞癌 100%, 未分化癌 25%, 悪性リンパ腫 0% の集積陽性像が認められる。⁶⁷Ga では乳頭癌 0%, 濾胞癌 0%, 未分化癌 100%, 悪性リンパ腫 100% の集積陽性像が認められる。以上をまとめてみると、癌が疑がわれる腫瘍で、¹⁹⁷Hg, ²⁰¹Tl で集積があり、⁶⁷Ga で集積が認められないものは分化癌であって、²⁰¹Tl で集積がなく、¹⁹⁷Hg, ⁶⁷Ga で集積が認められるものは未分化癌・悪性リンパ腫が強く疑がわれる。また、²⁰¹Tl で集積があり、¹⁹⁷Hg, ⁶⁷Ga で集積が認められないものは濾胞癌である可能性を示唆する成績を得たので報告し、さらに Hg の集積機序について検討したので述べる。

89 気管支動脈内注入 ²⁰¹Tl chloride シンチグラフィによる肺癌の診断

利波紀久 (金大・核) 渡辺洋宇, 佐藤日出夫 (金大・1 外) 利波久雄, 山本 達 (金医大・放) 松井 修 (金大・放) 道岸隆敏, 前田敏男, 分校久志, 小泉 潔, 松田博史, 中嶋憲一, 桑島 章, 多田 明, 一柳健次, 油野民雄, 久田欣一 (金大・核)

²⁰¹Tl-chloride に肺癌病巣を陽性描画する性質のあることを報告してきたが、⁶⁷Ga-citrate との臨床成績の比較では ⁶⁷Ga-citrate に優る結果は得られていない。この ²⁰¹Tl の不満足な成績の最大の原因は、1 度の灌流による腫瘍病巣への ²⁰¹Tl 供給量が乏しいことにあると考え、²⁰¹Tl の供給量を増すために気管支動脈内に直接注入することを試みた。肺癌 12 例に診断ならびに治療の目的で施行した気管支動脈造影の際に生食 2~5 ml に希釈した ²⁰¹Tl 0.5~1.0 mCi をカテーテルを通して比較的ゆっくり注入したのち局所撮像をおこなった。本法により肺癌原発巣は 100% 描画されるとともに、気管支動脈支配の肺門ならびに縦隔転移リンパ節も鮮明に、しかも ⁶⁷Ga よりも高率に描画された。本法は、肺癌の肺門ならびに縦隔リンパ節転移巣の有無の検索に極めて有用な診断法と評価された。

88 縦隔腫瘍における ²⁰¹Tl-chloride シンチグラフィの評価 — ⁶⁷Ga-citrate シンチグラフィとの比較 —

坂田博道, 中條政敬, 城野和雄, 島袋国定, 篠原慎治 (鹿大, 放)

縦隔腫瘍の核医学診断には、放射性医薬品として、従来より ⁷⁵Se-methionine や ⁶⁷Ga-citrate が用いられてきた。一方、心筋用として開発された ²⁰¹Tl-chloride は近年腫瘍スキャンにも応用され、甲状腺癌などの悪性腫瘍の診断にも広く用いられているが、縦隔腫瘍に関する報告はほとんどみられない。そこで、われわれは組織診の得られた種々の縦隔腫瘍 7 例について、²⁰¹Tl-chloride による腫瘍シンチを行ない、集積の有無や程度に関して ⁶⁷Ga シンチと比較検討した。集積の程度は(+)、(+), (-) の 3 段階に分類した。

1) 悪性リンパ腫 2 例, 悪性胸腺腫 1 例では全例 ⁶⁷Ga (+), ²⁰¹Tl (+) であった。2) yolk sac tumor 1 例, Castleman's lymphoma 1 例では ⁶⁷Ga, ²⁰¹Tl とともに (+) であった。3) 良性奇形腫 1 例ではいずれも (-) であった。4) 縦隔腫瘍が疑われた甲状腺癌 (follicular adenocarcinoma) の縦隔リンパ節転移 1 例では ⁶⁷Ga (-), ²⁰¹Tl (+) であった。

症例数は少ないが、²⁰¹Tl-chloride は縦隔腫瘍の診断にも有用であると考えられた。

90 子宮体部腫瘍の組織学的所見と ²⁰¹Tl-chloride スキャン。

室井克夫¹, 戸張千年², 渡辺肇¹, 野口昭二¹, 大村剛¹, 黒沢洋² (1: 東邦大・産婦, 2: 東邦大・放)

われわれは、²⁰¹Tl-chloride スキャンが子宮体部病変の検出に非常に有効性が高いことを報告してきた。しかし、本法は良性腫瘍・子宮筋腫にも取り込まれその悪性度の診断には注意を要する。今回、われわれは組織学的に明らかになった子宮体部癌 (11 例) の ²⁰¹Tl-chloride スキャンの画像に検討を加えたので報告する。スキャン方法は、²⁰¹Tl-chloride の 2 mCi を静注し、20 分後に Hg-X 線の 80 KeV で撮影した。その結果、子宮体部癌の組織学的所見は、腺癌 7 例, 腺類癌 3 例, 肉腫 1 例であった。画像の検討では、腺癌に最も強く取り込まれ、次いでほぼ同程度の腺類癌と肉腫であり、腺構造を有する腫瘍に強い取り込みが認められた。各々少ない症例数ではあるが、それぞれ特徴的な画像が得られた。また子宮腔の炎症を併発例は、中心にやや低い取り込みの像が得られ、²⁰¹Tl-chloride は炎症巣にも集積することも判明した。RI ミニコンピュータによりヒストグラムを検討すると ²⁰¹Tl は非常に早期 (ほぼ 20 秒程度) で腫瘍内に取り込まれ、また機能図は、99mTc-アルブミンで腫瘍内集積はなく、²⁰¹Tl で明らかに腫瘍内に取り込まれている結果が得られた。